

1 研究主題

学びあい高めあう児童の育成を目指して

～学んで考える授業づくりと学ぶ意欲を高める指導のあり方～

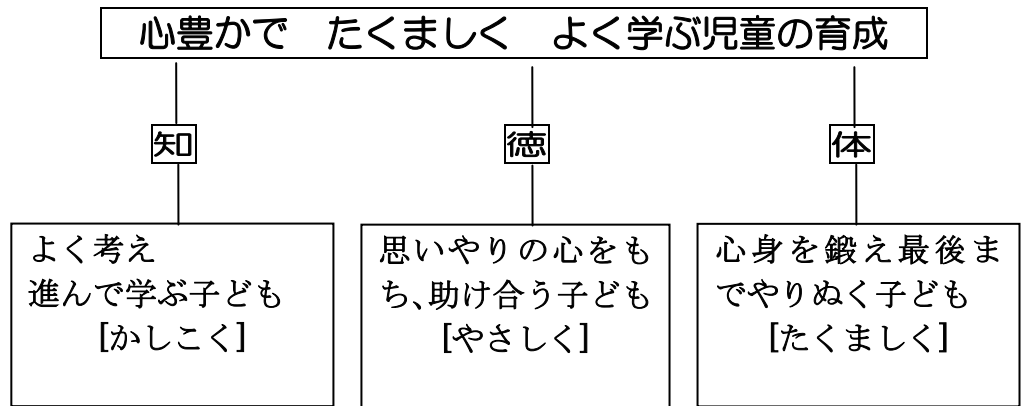
2 主題設定の理由

1) 学校目標から

○教育目標

心豊かで たくましく よく学ぶ児童の育成

○具体目標



○本年度の重点

- 基礎・基本の「習得」とそれらを生かす「活用」の両面での授業改善と学力向上に向けた取組を具体的にする。
- 小笠原流礼法を取り入れるなど、日常の道德教育の一層の充実を図り、地域ふれあい道德事業に反映させる。
- 特別支援教育の視点を生かし、どの子にもわかりやすい授業づくり、過ごしやすい環境づくりに取り組む。
- 情報の発信・受信を積極的に行い、保護者・家庭との連携を一層進める。

教育目標の具現化に向けて、研究をおこなっていく。

2) 昨年度までのあゆみから

一昨年度までは、「特別支援教育の視点を生かした授業づくり・環境づくり」というテーマのもと、ユニバーサルデザインの発想を取り入れた、どの子にもわかりやすい授業・居心地のよい環境づくりの研究を行った。具体的には、授業実践を通してデジタルコンテンツの積極的利用、課題提示の工夫、教具の研究、ヒントカードの工夫を行った。また一方では、教室内・学校内の環境整備、落合小スタンダード（決まりやルールの確認）の作成、Q-U 検査の活用（分析と学級経営の改善）も平行して進め、子どもたちを取り巻くルールや環境についても検討を重ね、実施してきた。

しかし、「児童の主体的な学び」までには、迫れていないという反省もあり、方向性が見直しが図られた。そこで、「学んで考える授業づくり」の視点を取り入れ、児童が主体的に考え理解を深めるために、まず、「基礎的な知識・技能」をしっかりと学び・理解した上で「さらにその先を考えていく」という学び方の研究を進めた。DVDを視聴したり、鏑木良夫先生を招いての示範授業やの学習会を行ったりして、『教えて考えさせる授業』について学習し、授業実践も行う中で研究を深めることができた。また、学習環境の取り組みの中で「家庭学習の手引き」を用いた保護者への啓発や朝読書、「学習のきまり」・「落合小スタンダード」の見直しなども行ってきた。

3) 今年度の方向性

昨年度までに重ねてきた研究の中で、「主体的に学ぶ児童」の育成になかなか迫れないという反省が残った。そこで今年度は、児童の実態とこれまでの反省をふまえ、「主体性」に近づくための前段階ととらえ、～学ぶ意欲を高める指導のあり方～として研究を進めたい。また、教科を算数に絞って「教えて考える授業」の考えにもとづいた実践を継続していく。「基礎的・基本的な知識・技能をしっかりと学ぶこと」「それらをつかって考えあうこと」「児童同士で考えたり教えあったりすることをととし、理解を深めていくこと」を授業の柱に据えて、目標に迫っていきたい。この授業形態において「理解深化問題」をどう設定するかが、この授業手法の重要なポイントとなるので、研究会で討議を深め本校の財産として蓄積していきたい。

また、今年度は教師が児童の発達段階や実態を考慮した上で、全体のテーマに迫るための「個人研究計画」を立てる。目標を達成するための手立てを用意し、その効果や改善点などを記録し交流し合う取り組みを積み重ねたい。一方で、学習環境の整備についても一歩進め、学習規律をわかりやすく示す教室掲示やその他校舎内の掲示、そして新たにスタートした朝読書の取り組みをより効果的なものとする工夫についても検討を加える。

3 研究仮説

児童の状況に適した指導を具体的に工夫し、「学んで考える授業づくり」を行うことにより、
A B
意欲的に学ぶ児童を育成することができるであろう。
C

A：児童の発達段階や状況を把握した上で、個人研究計画を立案し、それにもとづいた具体的な指導方法の工夫・改善を図り、交流し共有し合う。

B：授業実践を行う教科を算数に絞ることで、より研究内容を焦点化する。教科書に出ている基礎的な知識・技能を児童が共通にしっかりと学び、さらに理解を深める課題によって問題解決や討論を行う授業づくりの研究を積み重ねる。

C：「家庭学習の手引き」を活用した保護者への啓発。「落合小スタンダード」や「学習のきまり」を検討・活用と、教室や校舎内の環境整備など授業以外のアプローチ。

「意欲をもち課題解決に取り組む子」とは、

- ・学んだ知識をもとに、学びを広げる子
- ・友達との関わりの中で物事を深く理解する子

4 研究の内容

1) 個人研究計画の作成と実践の交流。

児童の状況把握をもとにした、具体的な指導方法の工夫・改善。

(例) 指示、発問、学習規律、ノート指導、話し方・聞き方、授業形態の工夫など

2) 「学んで考える授業」づくり(算数科を中心に)

・「学んで考える授業」のステップモデル

① 教師からの説明(「学ぶ」の部分)

○教科書を開けば出ているような基本事項は、教師から共通に教える。

○教材、教具、操作活動等を工夫したわかりやすい教え方を心がける。

○教師主導で説明するにしても、子どもたちと対話したり、ときおり発言や挙手を通じて理解

状態をモニターしたりする姿勢をもつ。

②理解確認課題（「考える」の第1ステップ）

○「教科書や教師の説明したことが理解できているか」を確認する子どもどうしの説明活動や、教え合い活動を取り入れる。

○問題を解いているわけではないが、考えないとできない活動として重視する。

③理解深化課題（「考える」の第2ステップ）

○いわゆる問題解決部分。

○多くの子どもが誤解していそうな問題や、教えられたことを使って考えさせる発展的な課題を用意する。

○小グループによる協働的問題解決の場面により、参加意識を高め、コミュニケーションを促す。

④自己評価活動（「考える」の第3ステップ）

○「授業でわかったこと」「まだよくわからないこと」を記述させたり、「質問カードに」よって、疑問を提出したりすることを促す。

○子どものメタ認知を促すとともに、教師が授業をどう展開していくかを考えるために活用する。

- このステップモデルは、1単位時間の学習過程としても良いし、その単元の中での学習過程としても良い。子どもが「学ぶ」部分を理解するのに手間取り、教材や説明の仕方を工夫することによってより理解が深まる場合には、「学ぶ」でたっぷり1時間、「考える」の部分で1時間ということもありうる。時間配分は、その単元の学習内容に適したバランスを考える。

- 理解深化課題（発展問題）の設定の仕方の例

○子どもが誤解しがちな問題

○習ったことを応用・発展させる課題

○試行錯誤による技能の習得（実技系教科）

（『教えて考えさせる授業』を創る 市川伸一著 図書文化）

3) Q-U検査を学級経営や授業に生かす。

検査結果を分析し、要支援の児童には、個人面接を行う。また、教師自身の自己分析にも生かし、学級経営の改善を図る。

4) 家庭学習や、学習規律等の取り組みなどを通して、児童の学習スキルの向上を図る。

「家庭学習の手引き」の配布。実施状況などを分析しながら、保護者への啓発を図る。

5) 学習環境の整備

- 教室環境の整備・・・声の物差し、姿勢の取り方、発表の仕方など
- 校内環境の整備・・・玄関、廊下、掲示板を活用した掲示の工夫
- 落ち着いた雰囲気です1日をスタートさせる朝読書の取り組み。

5 研究の方法

Q. 個人研究計画書を作成し、それにもとづいた実践的研究を行う。

• 全員が授業提案を行う。（一人一実践）

• 算数を中心とした授業において、「学んで考える授業」づくりを継続する。基礎的な学習内容を子ども達に分かりやすく伝え、学んだ「知識・技能」を用いて「理解深化問題」に取り組む活動を通して、既習事項の理解を深めたり発展的に応用力をつけたりできるようにする。

• 授業提案のうち2つの授業については、研究授業として位置づけ、授業づくり、指導案の作成・検討を、各ブロックごとに行う。また、全体会にて1度指導案検討をおこなう。実践は、

児童の姿が見える学習記録としてまとめ、その成果は、研究紀要としてまとめる。

- ・一人一実践の授業については、単元の構想と指導計画、本時の授業の流れがわかる簡単な指導案を作成する。
- ・授業は公開とし2つの授業以外は、ブロックごとの参観とする。また、授業の反省と交流を行い、実践記録としてまとめ、研究紀要に掲載する。
- 低・中・高学年のブロックに分かれて、授業づくりと学習環境づくりを各ブロックの計画に従ってすすめる。
 - ・共通した問題意識のもと、研究を深める。お互いの授業について助言し合い、よりよいものとしていく。研究したことを日々の実践に生かす。
- DVD視聴や外部講師を招いて学習会や授業研究を積極的に行う。

6 研究日程

| 回 | 月 | 日 | 曜日 | ブロック, 全体 | 内 容 |
|----|----|----|----|----------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 4 | 24 | 水 | 全 | 今年度の研究の方向について (研究主題・組織・研究計画等) |
| 2 | 5 | 15 | 水 | 全 | 研究の具体的な実践内容と指導案について ・理論研究 ・個人研究計画の設定について ・指導案の形式について ・授業者の決定 |
| 3 | 6 | 5 | 水 | 全 | ・楠木先生を招いて示範授業、学習会(先行学習、学習規律について) |
| 4 | 6 | 12 | 水 | ブ | ・学力学習状況調査の問題分析、個人研究計画の交流、学習環境づくりの計画 ・Q-U検査の分析と意見交換 |
| 5 | 6 | 19 | 水 | 全 | ・全国学力学習状況調査、県学力把握調査の結果を活用した指導改善ポイントの検討 |
| 6 | 7 | 10 | 水 | ブ | ブロック研究(学習環境づくり) |
| 7 | 7 | 22 | 水 | 全・ブ | ・学習会「算数の授業づくり～効果的な指導方法の具体例～」 ・ブロック研究 |
| 8 | 7 | 30 | | 全・個 | ・外国語活動校内研修 ・一人一実践の取り組みの計画 |
| 9 | 8 | 22 | 水 | 全・ブ | ・教育課程還流報告 ・授業案づくり、個人研究計画の見直し |
| 10 | 9 | 4 | 水 | ブ | ブロック研究(授業案づくり) |
| 11 | 10 | 9 | 水 | 全 | 授業案検討会 算数科「三角形のなかまを調べよう」 授業者 3年 |
| 12 | 10 | 16 | 水 | 全 | 研究授業① 算数科「三角形のなかまを調べよう」 授業者 3年 (指導助言 総合教育センター 研修主事 招聘) |

| | | | | | |
|----|----|----|---|---|---------------------------------------------------------|
| 13 | 10 | 30 | 水 | 全 | 指導案検討会 算数科「形をしらべよう」 授業者 2年 |
| 14 | 11 | 13 | 水 | 全 | 研究授業② 算数科「形をしらべよう」 授業者 2年 (指導助言 総合教育センター 研修主事 招聘) |
| 15 | 12 | 18 | 水 | 全 | 実践発表・報告会 |
| 16 | 1 | 22 | 水 | ブ | Q-U検査の分析, 学習環境づくりについて 検証・分析 |
| 17 | 1 | 29 | 水 | 全 | 一人一実践発表(授業の検証・分析) 公開研究会に参加しての還流報告 |
| 18 | 2 | 12 | 水 | 全 | 学習環境づくりまとめ 効果的な学習活動の交流 |
| 19 | 2 | 19 | 水 | 全 | 研究のまとめ 1年間の反省と来年度に向けて |
| 20 | 2 | | | 全 | 研究紀要づくり |

詳細は 平成25年度 落合小学校 研究紀要に掲載